

皮膚経由で小麦アレルギー発症。 中高年は老人性角化症に注意。

「赤ちゃんから高齢者まで、それこそ頭から足先に至るまで、大学病院ならではの高い専門性を生かした診療で皮膚に関するあらゆる疾患に対応しています」と語るのは、皮膚科の藤本亘教授。免疫アレルギー性皮膚疾患や水疱症、角化症などの難治性皮膚疾患の専門医として当科を率いている。

まずは最近の皮膚疾患の傾向を尋ねてみた。「これまで、口からの摂取で食物系抗原が体内に入り、アレルギーを引き起こす、いわゆる『経皮感作』という新たな経路が注目されています。この典型的な例が、二〇一〇年に発覚した小麦加水分解物を使った石鹼による小麦アレルギーの問題で、この時、多くの方が小麦アレルギーを発症しました。そのため当科では皮膚疾患の原因を探るために、患者さんの話を事細やかに聞くことを重視しています」と藤本教授。

次に、中高年が注意すべき皮膚疾患を尋ねてみると…
「やはり老人性角化症。日光角化症とも呼ばれていました。老人性角化症はがん化する場合があります。原因は紫外線で、若い頃からアウトドアスポーツなどで紫外線を浴びる機会の多かった人は特に注意すべきです。また農業や漁業、屋外で仕事をされてきた人も。シミとかさぶたが繰り返しできる場合は、早めの病理検査をお勧めします」。

医療最前線 vol.41 皮膚科

Report!

専門的な検査と 他科との連携で 患者の期待に応える

by 川崎医科大学附属病院

悪性腫瘍に対する多彩な治療。 大学病院だからできる」と。



多忙な日々を送る藤本教授。5年ほど前から気分転換に始めたランニングは今も継続中。「ストレス発散のために走り始めました。週末の学会にはシューズとウェア持参で参加しています(笑)。早朝に知らない街を走るのが何よりの楽しみ。長崎や神戸、新潟では信濃川のコースがよかったです」。帰宅後、アプリで記録をなぞるのが愉しみだそうだ。

藤本亘教授
Wataru Fujimoto

■認定医・専門医・指導医
日本皮膚科学会皮膚科専門医、日本がん治療認定医機構暫定教育医
■専門分野
水疱症、角化症、乾癬、免疫アレルギー性皮膚疾患

皮膚に関するあらゆるトラブルにチーム医療で対応している当科。免疫アレルギー皮膚疾患、皮膚癌、皮膚ウイルス感染症、乾癬など、それぞれの領域の専門医が診断、治療にあたっている。

アレルゲンを検索する
皮膚テストには、皮膚にアレルゲンの液を1滴垂らし、軽く突いて浸透させ、15分後に判定する「ブリックテスト」、アレルゲンを皮膚に貼りつけて2~7日後に反応を見る「パッチテスト」などがある。

「多様な皮膚疾患の原因を特定するためには、患者さんの食生活や仕事の内容、身に着けている衣服や使っている化粧品など、何気ない会話の中からヒントを探ることが大切です」と藤本教授。そこには患者との確かな信頼関係が欠かせないと言う。

最後に医師としての思いを…。「患者さんがわざわざ当院に来られるにはそれだけの理由があるはずです。私たちはその理由(期待)にしっかりと応えなければなりません」。穏やかな笑顔の向こうに医師としての確固たる責任感と覚悟を垣間見た。

お問い合わせ
川崎医科大学附属病院
086-462-1111
<http://www.kawasaki-n.ac.jp/hospital/>